

いきものふれあいの森 通信

2025.7.10 第8号



オオムラサキ



アルプス公園に多く見られるオオムラサキ。オオムラサキは日本の国蝶で、6月下旬から7月上旬に羽化の最盛期を迎えます。

アルプス公園にはエノキやクヌギの雑木林が多く、オオムラサキにとってこの環境はとても大切なものです。オオムラサキはエノキで生まれ、幼虫の頃はエノキの葉を食べ、羽化するとクヌギの樹液を吸って生き、またエノキにたまごを産み、そしてエノキの近くで死んでいく…と云う一生を守るためにも、この環境を大事に守っていききたいものです。

7月5日(土)、6日(日)の両日にはオオムラサキの観察会が行われました。5日は『松本市環境・地域エネルギー課、生物多様性エコスクール』の一環として、6日は『山と自然博物館』による開催でした。



沢山の親子連れに参加いただき、皆さん虫取り網を振りながら何かを捕まえると引率の先生に「これは何ですか～」と聞きに行きます。

両日ともオオムラサキを始め、ヤマトシジミ、キタキチョウ、スジグロシロチョウ、ジャノメチョウ、ヒメウラナミジャノメ、ベニシジミ、イチモンジチョウ、

ツバメシジミ等の9種類の蝶々が確認できました。

捕まえた蝶々は記念にスマホでカシャッ！



虫取り網を一振りしたら、オオムラサキのオス・メス2匹を一度に捕まえた小学生の男の子は大感激！



昆虫が大好きな子はこんな昆虫も捕まえていました。大きなナナフシです！



観察した後は、捕獲した蝶々や虫たちを森の中に返してあげました。

「いきものふれあいの森」は木々も草花もうっそうと生い茂ってきて、私達も草刈りのシーズンとなっていますが、そんな中でも、初夏の草花の姿を見ることができます。

長い花穂の波打った姿がトラの尻尾のように見える
事から名付けられたオカトラノオ。



花の中にホタルを入れて遊んだと云われるヤマホタルブクロ。



「山の神」から少し下るとササが開花していました。
開花は60～100年に一度と云われ、一斉に咲いた
後は枯れてしまいます。今後、しばらく注意してみ
ていましょう。



「古民家」周辺にはオニグルミの実が育っています。



そして、カリンの実も…。



厳しい暑さが続く毎日ですが、朝夕は街中より少しは
涼しいアルプス公園「いきものふれあいの森」に涼み
にいらしてください。

以上

伝言板

その1

森の入口広場 “池”の自然観察会

- ・ 場所 森の入口休憩所前の池
 - ・ 日時 8月2日(土) 10時～12時
- 詳細が決まりましたらアルプス公園公
式SNSにて発表します。

その2

みんなで温暖化ウオッチ 「セミのぬけがらを探せ! 2025」

- ・ 場所 アルプス公園内
- ・ 日時 8月4日(月) 9時～11時
- ・ 対象 主に小学生
- ・ 定員 20人
- ・ 申込 7/1～8/1

詳細は「長野県環境保全研究所」にご確
認下さい。

Tel 026-239-1031